

「第89回 法人企業統計研究会」の議事要旨

令和3年4月12日（月）～5月14日（金）

書面にて開催

季節調整値について（令和2年度 中間報告）

◎資料1に基づき、「次回研究会におけるモデル検討方針」について事務局から提案。

◎提案に対する委員からの主な意見

（2021年1-3月期までの計数を利用し、「売上高」、「営業利益」、「経常利益」の製造業、非製造業別の6系列について、新型コロナウイルスによる変動へのダミー変数（A0、RAMP）の適用を検討することについて。）

- ・特に「設備投資以外の系列についてダミー変数を利用すべき」には賛成する。現段階では今後なおマクロ的変動についてのある程度の不確実性が存在するため、当面はA0タイプ、今後の推移によってはRAMPタイプの利用を検討すると良いだろう。
 - ・もうしばらく時間がたてば、最終的な扱いを決めるとしてもX-12-ARIMAにおける採用モデルはなるべく早い段階で変更した方が良いと判断する。
 - ・最終的には、2021年1-3月期のデータを含めた分析結果に依拠するが、緊急事態宣言による経済活動への影響が特異的であり、ダミー変数で対処するとの判断は説得的であり、理解を得やすい。2020年度中に2度の緊急事態宣言が発令されているので、A0の適用が操作性の観点からも有力と考える。
 - ・ダミー変数の適用の検討が必要と考えられる。
 - ・ダミー変数の設定は、6系列については必要となる可能性、4系列については必要のない可能性が指摘されているのはその通りだが、実態は季節性でないことは明らかであり、対応方法について現段階で判断することは困難だろう。
- ⇒ 「売上高」、「営業利益」、「経常利益」の6系列におけるダミー変数（A0、RAMP）の適用を検討することについては、多くのメンバーから賛同を得られた。ダミー変数の適用については、次回研究会による結論により決することとしたい。

（「ソフトウェアを除く設備投資」、「設備投資・ソフトウェア」の製造業、非製造業別の4系列について、現時点では新型コロナウイルスに関連した対応は不要となる可能性が高いが、2021年1-3月期のデータを加えて再度モデルの検討を行うことについて。）

- ・法人企業統計のこの間の動きを見ていると設備投資のみがコロナ問題の影響が少ないような印象を受ける。現段階ではその理由は不明だが、企業側で特定の業種を除き、コロナ問題は一過性と理解、投資活動をあまり変えていない可能性はある。他方、経済分析では企業収益が落ちるとしばらく時間を経過して投資活動に影響する、という考えも有力だろう。したがって、ここしばらくは注意深く検証していくことが望ましい。
- ・法人企業統計の設備投資系列はGDP速報では重要な役割を果たしていることから、手間をかけて検証することが望ましい。
- ・ソフトウェアを除く設備投資、設備投資・ソフトウェアの4系列について、（新型コロナウイルスの感染の波が繰り返し来ていることを反映した動きがある可能性があるため、）2021年1-3月期のデータを加えて再度モデルの検討を行うことについては適当である。
- ・2021年1～3月期においてもコロナは収束されておらず、経済への影響は考えられるので、再度モデルの検討は、必要だろう。
- ・ダミー変数の設定は、6系列については必要となる可能性、4系列については必要のない可能性が指摘されているのはその通りだが、実態は季節性でないことは明らかであり、対応方法について現段階で判断することは困難だろう。

⇒ 2021 年 1～3 月期以降においても、新型コロナウイルス感染症の影響が観測される可能性がある
るので、次回研究会においても「ソフトウェアを除く設備投資」、「設備投資・ソフトウェア」
の 4 系列の分析結果を報告し、研究会の結論により決することとしたい。

(「営業利益」、「経常利益」の製造業、非製造業別の 4 系列については、SR の上限値の設定がモデル
の選択の幅をどの程度制約しているか確認する(場合によっては上限値を見直す)ことについて)

- ・ SR 比に関する現在の基準は大きな変化が生じていない通常の場合には有効だと思われるが、昨
年来のような経済状況下では上限値を見直すことが妥当と考える。例えば X-12-ARIMA による季
節調整では reg(回帰)部分の設定の変更により、SR 比はかなり大きくなり得ると思われるが、
その場合には元の reg-ARIMA モデルが適切とは言い難かった可能性が大きい。従来にない経済
変動が起きた場合には柔軟に対処する必要があると考える。
- ・ SR の上限値の設定がモデルの選択の幅をどの程度制約しているか確認する必要があると考
える
- ・ 業種によっては、休業要請等により経済活動までストップさせた新型コロナウイルスの影響は、
今までに考えられないものだろう。SR の上限値の見直しについては、検討していただきたい。
- ・ 確認することは望ましいが、基準は出来るだけ変更しないことが望まれる。
- ・ 点検は重要と思われるが、危機毎に設定し直すと、事実上上限値がないような状況になる。上限
値次第で値が変わることにもなるため、撤廃は慎重に考えた方がよい。
- ・ 新型コロナウイルスは極めて特殊な影響を与えた。今後、類似の災難が発生する可能性は大き
くなったように思われる。もう少し状況が落ち着いた段階では、現在よりも柔軟な対応方法を
考える必要が生じるが、現時点では原理的に適切な方法を提示することは「誰にもできない」
と思う。
- ・ SR の上限を 2.0(%)とする場合、改定幅が大きいという懸念はどの程度かによるが、やや不安に
感じる。

⇒ SR の上限値を見直すことについては、導入の経緯により慎重なご意見が多いと認識。「営業利
益」、「経常利益」の製造業、非製造業別の 4 系列について、SR の上限値の設定がモデルの選択
の幅をどの程度制約しているかを次回研究会で報告し、ご意見をいただきたい。

その他

◎委員からの主な意見

- ・ 不規則成分の大きな変化は、特異な現象が起きたために、モデルがその変化をとらえきれてい
ないということを示しているように思う。
- ・ コロナ禍の影響で業績を伸ばした企業と業績が落ち込んだ企業があると思う。大分類では、両
方の動きが相殺されて平凡な結果になっている可能性がある。何か工夫できないか。
- ・ 他統計などと比較してみると、季節調整値の計測期間が長いように思われる。その結果、保守的
な SPEC となっており、足元の変動が過去の系列によって許容されやすい状況になっている可
能性がある。計測期間の検証を行ってはどうか。

⇒ いただいたご意見は中長期的な課題が含まれているものもあり、直ぐに結論を得られないもの
と認識しているが、今後の季節調整モデルの検証に際し参考としたい。

(以上)